

編 集 後 記

『今昔物語集』巻二十四に「藤原為時作詩任越前守語」という話が載る。紫式部の父為時が国守の新任地が不満で「苦学寒夜紅涙霑襟 除日後朝蒼天在眼」（くがくのかんやこうるいえりをうるほす ちもくのこうてうさうてんなこにあり）という詩に託して訴えた。時の為政者道長がことの一件を知り、この詩に感銘すると、身内である乳母子の新任地であった越前守を代りに与えたという。

公私混同も甚しいとはいえ、学問を評価する姿勢にあったとはすくなくとも言えよう。強欲な権力者に於いてをやである。

このたびの震災，とりわけ福島第一原発の事故も当然のこと，人災として被害拡大を招いた要因に，利権のために対立的学説や反対意見を封じ込めるなどという策謀があったやにうかがわれ，嘆げかわしいことこの上ない。まさに人心の荒廃を意味するものであろう。何を測り知れない国家的損失として見定めるべきかを問わねばなるまい。

ここに六冊目の文化創造学科紀要をお届けする。九本の論文の執筆者，査読者に謝するとともに，大方のご批判ご叱正を俟つ。

編集委員 久下 裕利

☆掲載論文の無断転載を禁じます。	学苑 八百五十三号	
	定価	八四〇円（本体八〇〇円）
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂一ノ七 電話 03（三四一一）五三〇〇	購読料	一カ年分 一〇〇八〇円
	（本体 九六〇〇円）	
発行所 昭和女子大学 近代文化研究所	平成二十三年十月二十日印刷	印刷所 三 秀 舎
	平成二十三年十一月一日発行	編集発行人 山 田 潔